



タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	スタートアップセミナー		
担当教員	林 達那		
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:E
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	木3	単位区分	必修
授業形態	演習	単位数	2
備考			
特修プログラム		ナンバリング	g1110010
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	50 %
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %
		協働的な問題探究	30 %
		社会の改善につなげる創造性	0 %
		市民としての主体的態度	0 %
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用		
授業概要とねらい	現代日本における政治と行政の仕組みを理解する際に重要となる基礎的な文献を、批判的に読解し、その内容についてグループでディスカッションを行う。		
単位認定基準	文献を理解し、その概要を的確にまとめることができる。 文献の内容を批判的に吟味し、その意義と課題について自らの意見を述べるができる。 グループディスカッションを通じて、相手の主張を理解し、自らの意見を展開できる。		
授業計画	<p>飯尾(2007)・大森(2006)(下記の「教材・教科書」を参照)を使用し、文献理解、課題発見の練習をします。毎回1章ずつという進度ですので、スローテンポかと思えます。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 飯尾(2007)第1章 第3回 飯尾(2007)第2章 第4回 飯尾(2007)第3章 第5回 飯尾(2007)第4章 第6回 飯尾(2007)第5章 第7回 飯尾(2007)第6章 第8回 飯尾(2007)第7章 第9回 大森(2006)第1章 第10回 大森(2006)第2章 第11回 大森(2006)第3章 第12回 大森(2006)第4章 第13回 大森(2006)第5章 第14回 大森(2006)第6章 第15回 前期の振り返り</p> <p>参加者は、各回までに以下の準備を行うこととなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 課題となっている章を読む。 ② 当該章のレジュメを作成する。 ③ 当該章を素材に、問題を作る。 ④ 当該章の主張に含まれている課題、当該章が十分扱っていない課題を明らかにする。 <p>各回の流れは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 参加者は、いくつかのグループにランダムに分かれる。 ② グループのうち1人がレジュメを使って報告を行う。(15分) ③ 用意してきた問題を相互に解く。その際、課題書籍を読んでも構いません。(10分) 		

	<p>④ 問題の答え合わせをする。(5分)</p> <p>⑤ 課題文献の意義と課題についてディスカッションし、各グループでその内容をまとめる。(45分)</p> <p>⑥ 各グループでまとめた課題文献の意義と課題を、全体に向けて報告する。(15分)</p>
教材・教科書	飯尾潤(2007)『日本の統治構造 - 官僚内閣制から議院内閣制へ』(中公新書) 大森彌(2006)『官のシステム』(東京大学出版会)
参考図書	ゼミの時間に指示します。
参考URL	
授業以外の学習	日ごろから新聞、ニュース等を通じて日本の政治や行政に関する問題について考えてみてください。
成績評価の方法	ゼミへの出席を前提として、レジュメの仕上がり具合、ディスカッションへの参加度合などを総合的に加味して評価します。
成績評価の基準	A: 単位認定基準のすべてをとても高い水準で実現している B: 単位認定基準のすべてを高い水準で実現している C: 単位認定基準のすべてを一定の水準で実現している D: 単位認定基準を満たさない
オフィスアワー	授業の最初にメールアドレスを開示します。メールで日時・場所を調整の上、面談します。
授業改善・工夫	演習を通じた学習において、学生の皆さんが受け身にならないような工夫を施した。
留意点・注意事項	
教員の実務経験の有無	

